

渋沢栄一のフランス体験と資本主義観

フランス文学者 評論家 鹿島 茂
かしま しげる

- *幕府はなぜフランスと親密になったのか
- *遣欧使節での渋沢のユニークな発想法
- *第二帝政時代のサン・シモン主義に注目
- *サン・シモン主義の3つの柱
- *万国博覧会という実験場
- *渋沢が見学した大改造されたパリ
- *フリユリ・エラールとは何者か
- *ソシエテ・ジエネラルについて
- *渋沢資本主義の独自性
- *岩崎三菱グループに対抗



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は元明治大学教授の鹿島茂先生においでいただきました。鹿島先生は1949年のお生まれで、湘南高校を経て東京大学でフランス文学を学ばれ、その後、共立女子大、明治大学で教授をされて一昨年退職されました。フランス文学がご専門でございます。大河ドラマをご覧になっておられる方も多いかと思いますが、もうすぐ渋沢栄一はパリ万博に参ります。パリでの経験がその後の渋沢栄一の生涯にたいへん大きな影響を与えたということですが、鹿島先生はそこら辺を詳しく研究されておられますので、渋沢栄一のフランス体験、それからその後について興味深いお話が伺えると思います。

それでは鹿島先生、よろしくお願いいたします

す。

幕府はなぜフランスと親密になったのか

鹿島 初めまして。鹿島です。（拍手）

マスクを外します。2回目のワクチン接種は終わっていますので、私から伝染するということはないと思います。

渋沢栄一のフランス体験とその経済活動についてお話します。渋沢栄一は1840年（天保11年）に生まれ、NHKの大河ドラマで詳しく描かれているように深谷の農民から尊皇攘夷に目覚め、武装蜂起計画をすることになります。

計画が挫折したあと、一橋家の平岡四郎という人を見る目があつた人に拾われて一橋家家臣となり、その後、慶喜が第15代将軍になってし